



# 味噌田楽

第82号・通算83号  
2014年9月14日発行  
日本ボーイスカウト  
東京連盟北多摩地区  
小平第五団広報委員会



カヌー体験



ハンバーガー作り



草木染め



うどん作り



妖怪村へようこそ

わらじ作り



お好み焼き作り



にわたりの解体

キャンプファイア



小平第五団 平成十四年度夏期キャンプ「名栗すこやか村」  
今年も楽しく思い出っばいの夏キャンプとなりました。

## 団委員のつぶやき

昨年十一月、今回の夏キャンプ予定地名栗を訪問。四年前、空き家で解体方針だった「旧柏木邸」は五団メンバーにて清掃、整備をし、柏木さんご努力が加わり今は財団化され、邸も「名栗すこやか村」となり維持保存状況にあります。二月に再訪問、正式に夏キャンプで利用したく申し出、快く了解を得ました。旧柏木邸近隣の鈴木木材さん、日頃の管理をされている浅見さん他多大なご協力を頂きました。

カブ隊の夏キャンプテーマ「さしきわらしを探せ」にビーバーも乗り、邸は妖怪村に変身。十六日合同夕食会、その後の邸内でのキャンプファイヤーもリーダーの仮装や絶妙なビーバー・カブスカウトによるスタンツ等で近年にない大盛り上がり。見学初参加の桑原佐一郎くんはびっくりするやら怖さで泣き出す始末。天候には決して恵まれなかった今回でしたが食卓さんの手際の良さや大量のお野菜の差し入れ、スカウトや保護者多くの方々の積極的参加にて大変盛り上がった夏キャンプでした。ただボーイ隊には便利すぎ物足りないキャンプになったのでは？

スカウト数の増加に沿った班・リーダー体制、女子スカウト増による対応力強化などを図り来期に向け前進していきます。  
(柴田記)



「ほく、わたしたちは、なぐりむらの、さしきわらし」カブ隊のテーマ「座敷童を探し」と「ゴネ」したテーマで企画した夏キャンプ。「妖怪ウォッチ」人気が後押しされてスカウトの反応も非常に良く、宿泊場所の「名栗すこやか村」の古民家にもびつたりテーマで始まる前からワクワクしていました。ビーバー隊は、予備キャンプで入隊した太陽に遠太郎、それと見学参加の佐二郎に、まりん組の櫻樹、未花、お姉さん役として詩織を含めた六名でキャンプへ参加。長いバスに揺られ名栗に入り、今まで渡ったことのないような一本橋が見えて来ました。妖怪の世界の入口でしょうか？保護者の方が、ちよと怖がってしまっほどの橋でしたが、子供達は平気な様子で一本橋を渡り、非日常の世界へ入って行きました。保護者が案じるより、子供達は運よく育つてい

るのか、妖怪に見守られているのか、誇らしげに歩いている様子のスカウトの顔が印象的でした。その橋の下、ちよと肌寒い中で、川遊びを始めようとした時、意地悪な「深流妖怪」が「待った!」「雨が降っている時は川に近付かない。」「リーダー、大人の人の言うこと聞く。」と約束させました。ところが、リーダーの言うことを聞かない子がいたので、出ました!「妖怪怒り鬼」みんなの安全を守る為に、不断優しい隊長が鬼に変装したのです。また、初めて冷たい川で遊んだ太陽と佐二郎は川の勢い強さと冷たさで「深流妖怪」のイタズラで川の水に浸かることが出来なかつたようです。でも、楽しい経験が出来たようで、次回はライフジャケットで川流れ「ゴッコ」しましょう!

この時間だけ「深流妖怪」に見守られていたのか、川遊びを終えた後は、大雨で午後の活動が出来ない程でした。しかし、裏庭に生えていた、ドクダミをカッターで着てサツと採取して「草木染め」開始。カマドでグツグツとドクダミを煮て輪ゴムで縛ったハンカチを染め、水洗いして出来上がりを開いた瞬間、何とも言い表せない自然の淡い黄色の絞り染めが現れました。またまた、「妖怪クサキーズ」の魔法で楽しませてもらいました。

キャンプファイヤーは残念ながら外では出来ませんでした。泣くほど怖い「妖怪ティンチョー」の出没で、みんな表情が氷付いてしまいました。しかし、楽しい歌やスタンツで温かい気持ちになり、固い表情は溶け最後は妖怪達と楽しい時間を共有出来たようでした。ちよと怖かったり、イタズラ好きの妖怪達に触れ合いながら、知らず知らず子供達は自然の恵みに同化して「さしきわらし」になっていた様でした。スカウトは、保護者やリーダー達を幸せな気持ち、幸福にしてくれる大事な「わらし」であることを改めて感じさせてもらった夏キャンプでした。

ビーバー隊長 熊原千明